

まちづくり懇談会 結果

日時：令和元年6月24日（月）
午後6時30分～8時30分
会場：コミセン第1会議室

～テーマ「産業」「観光」～

Bグループ

【前半】

○参加者 6名

○懇談内容

- ・漁業は人手不足が深刻で、昆布干しの陸回りが確保できなかったり、乗組員が減り、将来的には船が動かせなったりする恐れあり。
- ・近年、鮭やイカの漁獲量が減っている。イカ漁の外来船が減少すると町経済への影響が大きい。
- ・乗組員の新規参入を求める一方で、漁業資源の枯渇、回遊の変化など、従事者と漁獲高とのバランスも考慮しなければならない。（人を集めすぎても十分な稼ぎを提供できない）
- ・兼業の仕組みを構築できれば。例えば、漁業に従事している人が、閑散期に林業に従事したり、農業に従事したり、単体の産業ではなく、複数の産業で人材を回すような取組を考えていかなければ。
- ・広尾町を訪れる人は、その地域ならではの体験を求めてやってくる。（体験観光）たとえば、地引網体験や遊漁船乗船など。
- ・農業では、家族経営が減少し、農村がなくなる心配がある。
- ・サンタランドなど絵になる風景、場所など「インスタ映え」を意識しては。
- ・地元の人が楽しむことが大切。
- ・いちご狩りの取組を地道に行っているが、複数の農家で取り組めば、補完し合ったり、相乗効果も期待できるのでは。
- ・農業と漁業の連携。魚直売の日でのサンタマルシェ出店など。ネットワークを繋げて、たとえば、農家を訪れた時に漁業の体験の情報を伝えることができれば拮据りができるのでは。
- ・広尾で毎日鮮魚が買える直売店があれば。
- ・大げさな施設、取組ではなく、欲張らずにスモールスタートで、小さなアイデア、取組を徐々に拮据ていく、つなげていくことが大事。
- ・観光客へのちょっとしたおもてなしの心。
- ・チャレンジするときのリスクを事業者と行政がともに考えクリアしていくことが必要では。

【後半】

○参加者 6名

○懇談メモ

- ・漁業も農業も働き手の確保が課題で、後継者の就農・就漁意欲が低い。仕事がきつく、かつ安定的に稼げず魅力がない。
- ・酪農ヘルパー、スマート農業など、労働負担の軽減を考えていかなければ。
- ・売っているもの、作っているもののストーリーを見せることができれば購買者の興味を引くのでは。
- ・広尾のブランド、特産品などを広尾に来てから知った。情報発信に課題がある。何かに特化して売り出せば。
- ・広尾に来た人が、まず、最初に行く拠点のような場所が必要であり、観光ガイド機能の工夫も必要。
- ・友達が広尾町に遊びに来て、観光スポット等を案内しようとしたが、あまり連れて行く場所がなく困った。
- ・スマートフォンで町内の飲食店やお土産を買う店を調べても、ほとんど情報が出てこない。そのほかの観光情報なども乏しい。実際来てみると、色々と魅力的な場所はあるのだが、ほとんど知られていない。
- ・おもてなしや景観が、また来てみたいと思わせる魅力の一つになるのではないか。
- ・観光客を呼び込むには一つの市町村では限界があり、オール十勝で取り組む必要があるのでは。
- ・（観光資源としての）サンタには、まだまだ可能性を感じる。
- ・観光客の滞在時間を延ばすには、色々な情報をネット上にまとめて、コンテンツを繋げていくことが必要では。
- ・飲食店の後継者の確保が難しく、閉店する店が続出している。
- ・温泉と道の駅があれば、大きな魅力となる。